私の
ふるさと
再発見 4

十夜会と十日夜

（寺の行事と民間の行事）

中　島　考　二

昔、即ち旧暦の頃は、寺と民間でときを同じくして、同じ様な行事が行われることがありました。これは仏教行事に民間行事が積極的にとり入れられた事によるものであると言われているようでありますが、十夜会（じゅうやえ）と十日夜（とおかんや）は、その様な関係の旧暦十月、初冬の行事でありました。

室町時代の永享年間（1429～1441）に、京都の真如堂（天台宗）ではじまり、その後、明応４年（1495）後土御門天皇の勅により鎌倉材木座の光明寺（浄土宗）に移修されてから、光明寺末の浄土宗寺院ばかりでなく、広く関東一円の天台・真言・浄土の各宗の寺院に広まったとされる“十夜会”は旧暦十月五日から十月十五日までの十日十夜にわたる「報恩感謝」と「先祖供養」の念仏行事でありました。

この十日間の丁度中間に当る旧暦十月十日には、先祖に感謝する民間行事“十日夜”が行われていました。旧暦十月の初めの亥の日に行われる土地もあり“亥の子”とも言われていた様であります。

海宝寺の十夜会

この日は、農耕の季節に稲作を護って下さった「田の神」が田圃から上り、山に帰られて「山の神」となられる日であるとされ、農家ではその年の新穀で餅をつき「田の神」に供え、自分達もそれをいただき収獲を感謝する日でありました。この行事には「田の神は土産の餅をお供の蛙に背負わせて山に戻られるので、そのお供の恰好がいかにもおかしいと、畑の大根が首を長く伸ばしてこれをのぞくため、大根はこの日から一斉に首が伸びるのだ」という伝承があったようです。又「この日までは大根を抜いてはならない」とするタブーも伴っていたようであります。

いまこれら二つの行事はどの様に継承されているでしょうか。

“十夜会”は新暦の現在でも寺の十月行事として、もっとも期間が数日もしくは一日に短縮されてはいますが続いており、前号で海宝寺の“十夜会”を報告いたしました。

民間行事の“十日夜”は『平塚市史民俗調査報告書』からその様相を尋ねてみることにします。

平塚市内の10月行事に「田の神節供・秋の節供・百姓の節供・節供」などと呼ばれる行事がみられます。呼び方や日はまちまちですが、多くは10月９日に行われているとあります。このなかで、岡崎地区の「田の神節供」は11月10日に、豊田地区の「田の神節供」は11月９日に行われ、ボタ餅をつくったり、或は餅をついたり赤飯をふかしたりするお祝いの行事で、蛙、大根の伝承を伴っているとされます。

11月には「11月の亥の日に亥の子ボタ餅をたべる」という行事が、市内のほぼ全域でみられるようです。

平塚市内の水田は近隣他市に比べて多く残っていると言われていますが、農業の形態は大分変化しているのではないでしょうか。民俗調査は昭和55年から昭和62年にかけて行われたものですから、田の神節供といい亥の子ボタ餅といいさらに変って来ているとは思うのですが、ともあれこの様に伝わって来ているとみています。

「田の神」「山の神」は祖霊（ご先祖様）とされています。旧暦冬のはじめの十月十日山に戻られて「山の神」となられた祖霊は、翌年、農耕が本格的にはじまる旧暦夏のはじめ、山を下りて「田の神」になられます。その日に寺では“仏生会”或は“潅仏会”ともいう旧暦四月八日の行事が行われます。

つけたりですが旧暦での季節は、春（正月～三月）夏（四月～六月）秋（七月～九月）冬（十月～十二月）であります。

４回連載しました「私のふるさと再発見」は、今回が最終回です。
読者のみなさま、並びに著者の中島様には大変お世話になりました。ありがとうございました。（文化行政推進室）

平塚市文化振興基金にご協力を!!

この基金は、芸術文化事業の企画・実施、市民の創造的文化活動に対する支援、文化情報の収集・提供等の事業を目的に積み立てられています。趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

今年度平塚市文化振興基金にご協力いただいた方（敬称略）（平成18年８月から平成18年10月まで）

■平塚しらゆりライオンズクラブ（18.9）■湘南新舞踊協会（18.10）

発行／平塚市（文化行政推進室）
〒254-0045 平塚市見附町15－1
http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/

●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み
施設利用に関すること TEL 0463－32－2235
事業に関すること（平塚市文化財団） TEL 0463－32－2237
FAX 0463－31－6466